

讃岐の品 漂着ごみで表現

高松オルネ 香川短大生らアート展示



作品を展示する学生たち＝高松市浜ノ町

22日に開業を予定する新高松駅ビル「高松オルネ」（高松市浜ノ町）にあるアートギャラリーに、香川短大（宇多津町）の学生らが海から集めた廃棄物で瀬戸内海の穏やかな波と讃岐の特産品を表現したアート作品を展示した。

アートの県としての香川の魅力を学生らの手で発信してもらおうと、駅ビルの設計・内装を担当した会社が企画。同短大デザイン・アートコースの学生約30人が昨年夏から県内各地の海岸で漂着したペットボトルや発泡スチロール、プラス

チック容器などのごみを拾い集め、パネル45枚に貼り付けてうどんやオリーブ、盆栽、うちわなど香川県の特産品をデザインした。

学生20人が8日、高松オルネ4階にあるギャラリーに作品を持ち込み、長さ16メートル、高さ1・3メートルの壁面に1枚ずつ展示した。開業後、約半年間飾られる予定。学生のリーダー、2年の平田文香さん（20）は「四国の新しい玄関口となる駅ビルを訪れた人たちに海のごみの問題を考えてもらい、香川の魅力も見つけてほしい」と話していた。（福家司）